

平成 20 年度継続教育実施委員会活動の概要報告

早稲田大学 フェロー会員 ○依田 照彦(土木学会継続教育実施委員会 委員長)
日本工営(株) 正会員 佐々木 寿朗(土木学会継続教育実施委員会 幹事長)

1. はじめに

土木学会の継続教育(以後、CPD と略す)制度は 2001 年度に土木学会技術推進機構において創設された。その目的は、土木技術者が倫理観と専門的能力をもって社会に貢献していけるよう、専門とする分野の最新の技術や周辺の技術、社会的課題の解決方法等を修得し、土木技術者としての能力の維持、向上を図ることを支援することにある。現在、図 1 に示すように発展期間に入っており、さらなる活用が期待されている。

		99.4	00.4	01.4	02.4	03.4	04.4	05.4	06.4
	土木学会相当委員会	土木教育委員会 継続教育小委員会	技術推進機構 継続教育実施委員会						
	制度プロセス	準備期間	開始・定着期間						発展期間
主な動き	土木学会内	技術者資格制度創設 ▼標準化推進	CPD制度創設 ▼コース開発	▼継続教育推進協議会				▼本部・支部連絡委員会	
	土木学会外			▼建設所継続教育連絡協議会設立準備 ▼建設所 CPD協議会				▼プログラム情報検索・ 閲覧システム稼働	
(I) 継続教育プログラムの提供	プログラムの認定			CPDプログラム認定				▼オンライン講習会認定	
	技術者協理教育			▲制度創設記念講習会				▼継続士業講習会	
	WEB教材			▼26TCコース制作				▼26TCコース制作	
(II) 継続教育記録の管理	記録・管理			「継続教育記録簿」による記録・管理				▼CardWeb による記録・管理	
	記録証明			「継続教育記録登録証明書」発行(FAX、郵便申請)				▼Webから申請	

図1 CPD制度に係わる活動

2. CPD 制度の現況

2.1 認定 CPD プログラム

図 2 は、認定 CPD プログラム数の推移である。制度創設から 7 年強で合計 4149 件のプログラムを認定している。年々、他機関からの認定要請が増加している点に特徴がみられる。

課題としては、昨年までと同様に、学会自体のプログラム数を確保すること、支部主催のプログラムを充実させること、若手技術者が参加しやすいプログラムを提案すること、等が挙げられる。特に、地方の現場等で CPD 単位を取得するのに苦労されている土木学会会員に対して、都市部に出てこなくても CPD 単位を取得できるように認定プログラムを準備することが土木学会に対する希望であると認識している。これらについては継続的に取り組む必要があり、幅広く議論を続ける予定である。

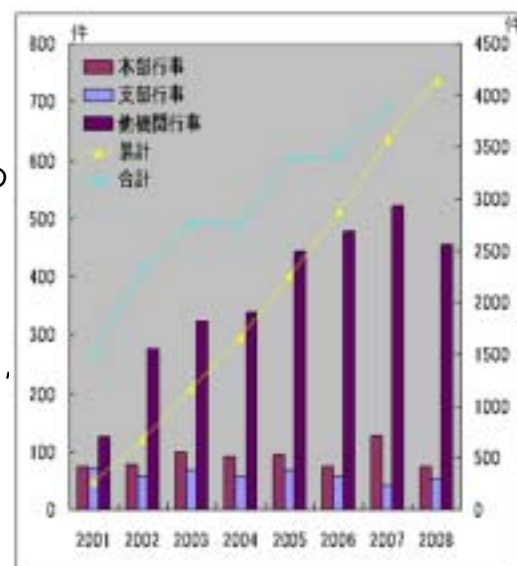


図 2 認定 CPD プログラムの推移

キーワード 継続教育, CPD, CPD 認定プログラム, CPD 記録登録証明, CPD ガイドブック

連絡先 〒169-8885 東京都新宿区大久保 3-4-1 早稲田大学理工学術院社会環境工学科 TEL 03-5286-3399

3. CPD の広報活動

3.1 Web ラーニングプラザへのアクセス

Web ラーニングへの注目が集まってきている中、JST に依頼し、Web ラーニングプラザに、CPD 単位を取得できることを明記していただいた。現在、土木学会制作のコースは7コースしかなく、コースの増設が期待されている。

3.2 CPD プログラムの充実

図3、図4にそれぞれ継続教育記録登録の証明の発行実績とCPD システム利用状況を示す。CPD 制度が発展期に突入したことが図から容易に読み取れる。地方や現場技術者に対するCPD プログラムを充実させるために、支部で実施している出前講座などと積極的な連携を図りたいと考えている。図5は平成19年度の各支部におけるCPD プログラムの対象となりうる活動をまとめたものである。内容まで吟味していないので、概略の数であるがCPD プログラムの数が不足している事実は否めない。

既存の教材の有効活用も喫緊の課題である。講演会資料、シンポジウム資料の公開とインターネットの利用が望まれる。

未だ検討段階ではあるものの学会内での講演会などをビデオ撮りし、講演資料とともにインターネットで配信することも企画している。

3.3 CPD 単位の一元的登録

各関連学協会のCPD プログラムに関するCPD 単位を一元的に管理することは、各学協会の単位換算が異なることや、実施主体、経費等の面から、考えても現時点では実施は難しい。しかしながら、土木学会会員へのサービスを考えると長期的な課題として地道に取り組む必要がある。

4. おわりに

今回の土木学会年次学術講演会で、「これからの技術者には何が必要ですか？」と題して研究討論会を開催することとした。土木学会が果たすべき継続教育と技術者資格について多くの方々と討論してみたいと思っている。「継続は力である」は古くて新しい言葉である。

参考文献

- 1) 小澤郁夫：平成19年度継続教育実施委員会活動の概要報告，第63回土木学会年次学術講演会概要集，2008年9月
- 2) 土木学会継続教育実施委員会：土木学会CPD(継続教育)ガイドブック，土木学会，2008年5月

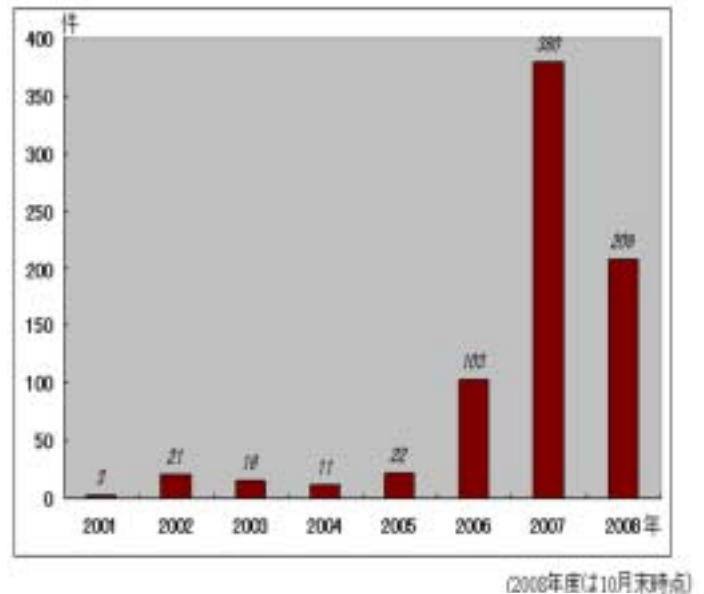


図3 継続教育記録登録証明の発行実績

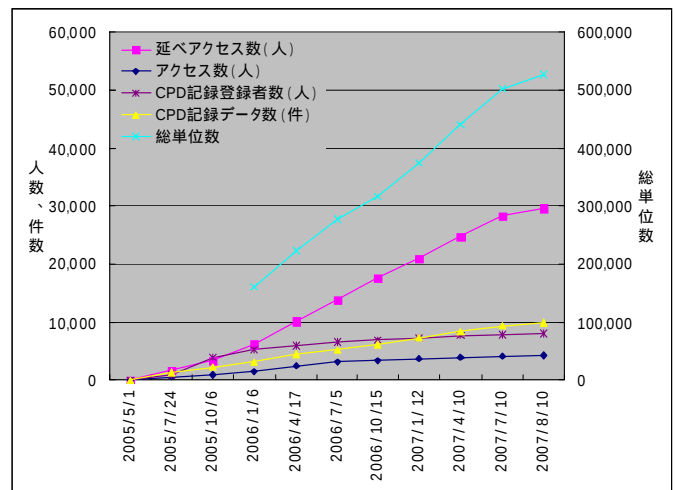


図4 CPD システムの利用状況

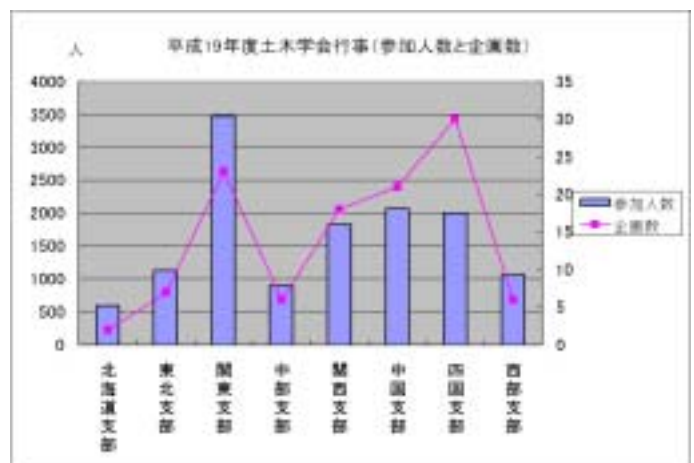


図5 平成19年度土木学会支部行事(本部行事は除く)